

論文審査の要旨および担当者

愛知学院大学

報告番号	① 乙	第 号	論文提出者名	野々山 順也
論文審査 委員氏名	主査		嶋崎 義浩	
	副査		福田 理	
			荒木 章純	
論文題名	中学生および高校生の顔部および歯の負傷の 特徴			

インターネットの利用による公表用

中学生や高校生の学校管理下の負傷では、球技による負傷が高い割合を占めているが、球技全体の顔部の負傷状況や負傷の種類の実態に関する報告は少ない。また、中学生や高校生はスポーツに接する機会が多いことから、歯の負傷は運動中に最も多く発生している。歯の負傷リスクは運動種目別で異なると考えられるため、運動種目別の歯の負傷リスクを把握することは歯の負傷予防活動を推進するうえで役立つものと考えられる。そこで、学校管理下における顔部および歯の負傷実態を把握するために以下の2つの研究を行った。

研究1：JSC（JSC：Japan Sport Council）名古屋支所管内に所在する中学校および高等学校に在籍する生徒の球技における種目別と負傷種類別の顔部負傷リスクを明らかにするために、顔部の負傷割合と顔部の負傷リスクを算出した。

中学生において球技の負傷で顔部を負傷する割合が高いのは、テニス、野球であり、高校生では野球、テニスであった。男子で球技の負傷で顔部を負傷する割合が高いのは、テニス、ソフトボールであり、女子では野球、テニスであった。

中学生において球技による顔部負傷で負傷種類別割合が高いのは、裂創、切創であり、高校生では割創、裂創であった。球技による顔部負傷で負傷種類別割合が高いのは、男女ともに裂創、切創であった。

球技での負傷割合が高いバスケットボールに比べると、顔部負傷リスク

はテニス、ソフトボール、野球において有意に高く、バレーボールでは有意に低かった。負傷種類別にみた負傷発生割合が高い挫傷・打撲に比べると、顔部負傷リスクは裂創、切創、割創において有意に高く、骨折、刺創では有意に低かった。

研究2：JSC名古屋支所管内に所在する中学校、高等学校に在籍する生徒の部活種目別の歯の負傷リスクを明らかにするために、学校種別、性別および部活種目別の歯の負傷割合と率比を算出した。

中学生において、歯の負傷割合は男子が女子よりも高かった。男子の部活中の歯の負傷割合は部活以外より低く、女子では部活中が部活以外よりも高かった。高校生では、歯の負傷割合は部活中および部活以外ともに男子が女子よりも高く、歯の負傷割合の率比は、男女ともにほぼ同じであった。

歯の負傷割合の率比は、高校生が中学生よりも高かった。男子中学生における部活別の歯の負傷割合の率比は、ソフトボール、バスケットボールで有意に高く、陸上競技、テニスで有意に低かった。女子中学生では、ハンドボール、バスケットボールで有意に高く、テニスで有意に低かった。

男子高校生における部活別の歯の負傷割合の率比は、球技とコンタクトスポーツにおいて有意に高く、特に、相撲、ラグビーで高かった。女子高校生における部活別の歯の負傷リスクは、ハンドボール、バスケットボールなどの球技で有意に高かった。

(論文審査の要旨)

No. 3

(2000字以内のこと)

愛知学院大学

以上2つの研究から、顔部および歯の負傷リスクには学校種別や運動種目別に違いが認められ、顔部および歯の負傷ともにマウスガードを含めた負傷防止対策を検討することが望ましいことが示唆された。

本研究は、学校管理下における顔部および歯の負傷対策を考えたうえで重要な資料となるものであり、口腔衛生学、小児歯科学、歯科補綴学および関連諸学に寄与するところが大きいものと考えられ、博士(歯学)の学位を授与するに値するものと判定した。

平成27年 1月28日